



果菜類のトンネル栽培のポイント

板木技術士事務所 ● 板木利隆

早取りを狙うトンネル栽培の植えどきは、桜の花が散り、日増しに陽光が強くなりだした4月上旬ごろ（関東南部以西の平たん地）です。果菜類の中でもカボチャ、トマトは比較的低温に強いのが特徴です。続いてキュウリ、次にナス、ピーマン、一番弱いのはスイカ、メロンとなります。植えつけはこの順で、2週間ほどの差をつけるようにします。

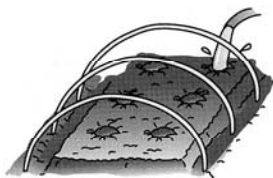
植えつけが近づいたら、早めに元肥を施し、高めに形よく畝を作りまします。数日前にはたっぷりかん水し、植え穴を掘ってトンネルをフィルムで覆い、すそに土を掛けて密閉して、十分に地温を高めておきましょう。適期が来たら、晴天日を見計らって苗を植えつけ、株の周りにかん水します。そして、直ちにフィルムで覆い、すそに土を掛けて密閉保温し

ましよう。トンネル内の気温が30度以上になるようなら、所々少しだけトンネルのすそのフィルムを開けます。夜間はすそを閉じて保温します。肝心なのは晴天の日中の換気です。およその目標として30〜32度以上にならないよう、所々すそを上げて通気しますが、風でフィルムがずり落ちたり、大きく開き過ぎたりしないよう、注意が必要です。

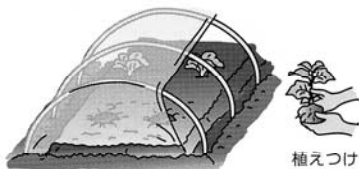
この約1カ月間の管理の良しあしで、トンネル栽培の成否が決まります。目が行き届かないようなら、図のように頂部を開口させる方が安全です。すそからの冷たい風が入らないので、順調な生育が期待できます。降霜の恐れがあるときには、夜間だけもう1枚、フィルムかこもなどの保温材を掛けて保護しましょう。換気をするので乾くので、土の湿り

具合を見て、時々かん水します。5月上・中旬になり、莖葉がトンネル内いっぱい伸びてきたら、徐々にフィルムを大きく開けます。やがて日中は全開放にし、夜だけ掛けるようになります。そして、次第に夜も開放しながら徐々に外気に慣らし、暖かくなったらフィルムを外して露地と同じような栽培管理に移していきます。

トマトやナス、ピーマン、キュウリは支柱を立て誘引し、カボチャ、メロン、スイカはつるを外に向けてはわせませんが、このときできるだけ葉が裏返しにならないようにして、丁寧に扱ってください。誘引したら、すぐに一回目の追肥をして、盛んな生育に促しましょう。（16W×58L）



畝を作り前もってかん水したら、植え穴を掘る。トンネルのフィルムを掛けて暖めておく



植えつけ

十分暖まったところへ苗を植えつける



日中30〜32度以上にならないように換気する

「自然換気2法」

・2枚を合わせ頂部を開く



・頂部穴開き



いずれもすそには土を掛けて寒風の侵入を防ぐ